

竹村憲郎先生ならびに高澤十四久先生の 定年ご退職に寄せて

竹村憲郎先生は平成21年10月13日に、高澤十四久先生は平成21年8月29日に、それぞれめでたく古稀を迎えられました。しかし、そのことは、同時に両先生が本年3月末日をもって定年ご退職されることを意味します。難しい課題に直面している本学、さらには来年4月に創設50年を迎える本学部が両先生の高い識見と貴重なご経験を必要としているこの時期に両先生が教壇を去られることは、私ども残されたものにとって本当に残念でなりません。ここに竹村先生および高澤先生のご略歴と本学や社会へのご貢献を紹介し、衷心より感謝の意と惜別の念を表したいと思います。

経営学部教授竹村憲郎先生は昭和14年10月13日に東京都足立区でお生まれになりました。昭和33年3月に東京都立江北高等学校をご卒業後翌4月に学習院大学政経学部に入學され、昭和37年3月に卒業されました。直ちに早稲田大学大学院商学研究科に入學され、昭和39年3月同研究科修士課程を終了後同研究科博士課程に進学されました。昭和45年3月に同研究科博士課程を終えられましたが、その間ミネソタ大学大学院に留学され、その経営学研究科修士課程を修了されています。竹村先生は、早稲田大学大学院商学研究科博士課程を終えられると同時に本学経営学部専任講師として入職されました。その後昭和48年助教授、昭和55年に教授に就任されました。爾来30年の長きにわたり本学の教育、研究、学内行政に多大な功績を残されました。

学部教育では、経営情報論、情報管理特殊講義といったまさに今日の経営学にとっても重要な情報の科目を担当されました。大学院にお

いては、経営情報論特論など経営理論とも大変関わりのある情報の科目をご担当になり、多くの優秀な学生を輩出されました。

校内行政においても、経営学部長をはじめ、大学院経営学研究科長、経営研究所長、国際交流委員会運営委員会委員など多くの重要な役職を歴任されました。特に国際交流に関しては、上記の運営委員のほか、国際交流委員会委員、国際交流センター委員会委員および同運営委員会委員は25年以上にわたり努められ、教員や学生の留学に積極的に関与されました。また、経営学部には学部長補佐制度があり、学部長はこの制度のおかげで大いに助かっていますが、この制度を提唱され初代の学部長補佐になられたのが竹村先生でした。学部長を務められていたときには、大学入試センター試験利用入試制度や学生による授業評価などの導入に関与されました。このように、竹村先生は、本学の運営・活性化に大変大きく寄与されました。学外活動・研究面におきましては、昭和52年にフルブライト交換研究員としてノースウェスタン大学、昭和59年には長期在外研究員としてネブラスカ大学で、それぞれ研究活動に従事されました。特にネブラスカ大学での研究活動は、本学の国際交流活動の活性化へとつながる結果となりました。学外におきましては、経営情報学会では幹事を、日本社会・情報学会では理事を、それぞれ務められました。他にも日本会計研究学会、日本セキュリティマネジメント学会など多くの学会で重要な役職を歴任されております。

経営学部教授高澤十四久先生は昭和14年8月29日に新潟県新発田市でお生まれになりました。昭和33年3月に新潟県立新発田高等学校をご卒業、翌34年4月に立教大学社会学部に入學されましたが、昭和36年4月に経済学部へ編入され、昭和38年3月に卒業されました。直ちに早稲田大学大学院商学研究科に入學され、昭和41年3月同研究科

修士課程を終了後同研究科博士課程に進学されました。昭和45年同研究科博士課程を終えられると同時に愛知学院大学商学部に専任講師として入職されました。その後昭和48年に助教授に就任されました。昭和56年3月まで同大学にお勤めになり、翌4月に本学経営学部に教授として入職されました。爾来29年もの長い間本学に大いにご貢献いただきました。

学部教育では、経営入門、経営学史といった経営学の重要な科目を担当されました。また大学院でも、経営組織論特論などきわめて重要な経営学の科目をご担当になり、多くの優れた学生を育成されました。

学内行政におかれても、学生部次長をはじめ、就職指導委員会委員、障害学生支援推進委員会委員など多くの委員を歴任されました。しかも、これらの委員はそれぞれ6年以上努められ、学生の勉学や生活を側面から積極的に支援されました。特に障害学生支援推進委員会委員としての高澤先生の活動には、感心させられるものがあります。また、大学院で奨学生委員会委員を努めておられたときは、私も委員をやっており何度か学生の面接にご一緒させていただきましたが、先生は親身になって学生に対応されていました。高澤先生は本当に学生が好きなのだな、とあらためて思ったことを今でも覚えています。学外におきましては、先生のご専門がバーナード研究であることから、日本バーナード協会の設立に参画されました。協会では、幹事など重要な役職を努められ、国際バーナード協会との何度かの共同事業には積極的に関与されました。このほかにも、経営学史学会や経営哲学学会などで、理事や会計幹事を歴任されています。フォレット協会では、昭和61年から現在にいたるまで長きにわたり幹事を努めておられます。

以上、竹村憲郎先生ならびに高澤十四久先生のご活動の一端を紹介させていただきましたが、お二人の教育、学内運営、学外活動などに

おけるご功績は大変顕著なものがあります。両先生のこのようなご功績に対して、経営学部は平成21年11月24日の教授会において、満場一致で竹村先生と高澤先生を専修大学名誉教授に推薦させていただきました。そしてここに、両先生からいろいろな形でご指導をいただいた後輩教員の最近の研究成果の一部を編集し、「専修経営学論集第90号」を「竹村憲郎教授ならびに高澤十四久教授退職記念号」として両先生に謹呈し、経営学部教員一同、衷心から深甚なる感謝と惜別の意を表する次第であります。

両先生が定年ご退職後もお活躍され、ご健勝であらんことを祈念いたしますとともに、名誉教授として私ども後輩に対する更なるご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、これまでのお礼とお別れのご挨拶とさせていただきます。

平成22年 3 月

専修大学経営学部長 瓶 子 長 幸